国立大学法人
東京農工大学

〒183-8538 東京都府中市晴見町 3-8-1
TEL:042-367-5895

NEWS RELEASE

平成２２年１月１８日

東京農工大学における JICA 草の根技術協力事業
ウズベキスタン共和国シルクロード農村副業復興計画
－フェルガナ州における養蚕農家の生計向上モデル構築プロジェクト－

大学院共生科学技術研究院
教授　濱野　國勝（昆虫機能学研究室）

シルクロードの中継地であるウズベキスタンには、その名にふさわしいシルクがあります。アトラスと呼ばれ、日本の絣（かすり）と同じような方法で作られる色鮮やかなシルクです。あらかじめ部分的に染め分けた経糸（たていと）を模様にしたがって織り上げていきますが、日本の絣模様のイメージと異なり、原色をふんだんに取り入れた織物となります。この美しい絣模様のアトラスは民族衣装となり、沙漠のオアシスの陽光を浴びてカラフルに輝き、とても鮮やかにウズベク女性を引き立てます。

ウズベキスタン共和国の養蚕業は、中国、インドに次いで、ベトナムに並ぶ世界第３位の生産量を誇っていました。シルクロード・シルクの主産地フェルガナ州は往古、大宛と呼ばれ、血の汗を流す汗血馬の産地として歴史に登場しています。そこには一昨年に二千年祭を祝ったウズベク人の古都マルギラン市と 19 世紀にグレートゲームと呼ばれた英露の帝国主義膨張政策のさなかロシア人が造成した異なる面持ちをもつフェルガナ市があり、この二つの街が絹生産の中心地となっています。フェルガナ州の郷土博物館にある、かつての王が使用していた蚕の紋章を見ても養蚕業が、この地域の伝統的地場産業であることが窺えます。この地域では、大規模な製糸工場から、遙か昔を彷彿させる伝統的手法で絹織物業を営んでいる家庭まで、様々な形で多くの人たちがシルク産業にかかわっています。

ところが 1991 年にソビエト連邦が崩壊して以降、中国製品の進出や様々な経済事情により、ウズベキスタン共和国全体での絹産業は衰退傾向にあります。そこで東京農工大学では、JICA の草の根支援事業によってウズベキスタン国立養蚕研究所と共同で、養蚕業と絹産業の復興を目標とした「ウズベキスタン共和国シルクロード農村副業復興計画－フェルガナ州における養蚕農家の生活向上モデル構築プロジェクト－」を 2009 年 9 月から開始しました。期間は 3 年間です。

この地域の農民は現金収入が少なく、首都のタシケントやロシアに出稼ぎにでているため、その衰退に拍車をかけています。そこで綿花や果樹の栽培などの作業が始まる前のいわば農閑期といえる４～５月に農家で養蚕を行って現金収入を増やし、故郷での労働創出の機会を増やすことで養蚕業を中心とした地場産業･農村の復興を計画しています。

現在は、日本の高品質繭とウズベキスタンの原種から造った新たな品種の開発を目指して共同研究を続けています。このプロジェクトにより開発されたウズベキスタン産高品質繭を原料として高品質な絹を造り、近い将来、シルクロードブランドの絹が世界に発信されることを確信しています。

さらに、ウズベキスタン共和国内の非営利団体と協力し、外国人観光客向けのシルク製品などを共同開発する予定です。これらのことで宗教的・文化的背景により、外で働くことを好まない農村の女性たちに自宅での作業による新たな現金収入獲得の道を開拓しようと考えています。シルクロード・シルクの復興を目指す我々の活動に注視して頂ければと思っています。